

芹沢俊介*: 日本のシケシダ類補記**

Shunsuke SERIZAWA*: Supplementary notes on the Japanese species of *Deparia* sect. *Athyriopsis*

シケシダ類は、日本では北海道地方を除けばほとんどの地域でも普通に見られるシダ植物の一群である。しかし、この群は種内での形態の変異がはげしく、安定した識別形質が少なく、しかも雑草的な普通種であるためにかえってよく注意されていないということもあって、分類学的に十分検討されているとはいいがたい。芹沢 (1973) は主として標本と東京近郊での野外観察に基づき、日本及びその周辺のシケシダ類を予報的にまとめたが、幸いにしてその後この群も多少は採集者の注意をひくようになり、1 新種を含む新しい資料があつまって、当時わからなかったことの一部分がはっきりしてきた。

最近加藤 (1977) は、倉田 (1961)、大場 (1965)、芹沢 (1973) 等が *Lunathyrium* として扱ったシケシダ類やそれに近縁なシダに対して、*Deparia* Hook. et Grev. というより古い属名があることを明らかにし、既知の種類の学名をこの属名のもとに組みかえた。しかし、加藤が行なった学名の変更はシケシダ類に関しては不十分なものであり、この類の属名に *Deparia* を使用するならば、更にいくつかの新学名を用意しなければならない。そこで、本論文ではそれらの提唱をかねて、日本のシケシダ類に関する追加と訂正を報告したい。報告にあたり、資料を御恵みくださった宮崎県の南谷忠志氏をはじめ多くの方々に深く感謝いたします。

1. ヒュウガシケシダ (新称) (図 1)

本種は宮崎県小林市永久井野で南谷忠志氏が 1975 年春に発見された変ったシケシダで、根茎が斜上またはほぼ直立し、古い葉柄の基部を含めて直径 1.3~2.5 cm になり、先端に葉を束生することによってはっきり特徴づけられる種類である。他の日本やその周辺に産するシケシダ類は、長短の差はあるが、すべて匍匐した根茎を持っている。そのため、根茎のついた資料ならば、本種の識別は極めて容易である。しかし、根茎以外の形質に関しては、本種は葉柄が細く基部がくちばし状にならないこと、葉身は 2 回羽状中へ深裂で下部の羽片が短くならないこと、葉軸表面には不連続型のみぞがあり、屈曲した多細胞毛が多いこと、包膜は大部分が半月形で、背中合わせのものや鉤形のものをまじえることなど、ほぼシケシダ類に共通の特徴をそなえており、他の種類と際立って異なるところはない。むしろ、葉だけ見れば、葉身や羽片の形状、多細胞毛が多い

* 愛知教育大学生物学教室。Department of Biology, Aichi Kyoiku University, Kariya-shi, Aichi 448.

** 本研究の一部は、昭和 53 年度文部省科学研究費補助金 (奨励研究 A) による。



図1. ヒュウガシケンダ *Deparia minamitanii* (holotype).

こと、葉の二形性が著しいことなどの点で、ホソバシケンダとセイタカシケンダの雑種と推定されるコセイタカシケンダとまぎらわしいほどである。しかし、コセイタカシケンダの場合少くとも裸葉では葉柄上部に鱗片が目立つが、本種の葉柄上部の毛状体はほとんどが単列の細胞からなっている。また、コセイタカシケンダの孢子は不定形であるが、本種は正常な孢子を生ずる。

本種によく似た既知の種類としては、スリランカの *Deparia polyrhizon*¹⁾ がある。この 2 つの種類は全体の概形やおおまかな特徴がよく一致し、おそらくごく近縁なものと思われる。しかし、*D. polyrhizon* では葉の二形性があまり著しくなく、葉身は卵形、羽片は 5~8 対、幅 1.5~2.5 cm、葉裏は脈上にも多細胞毛が散生し、脈間の葉肉上は無毛である。それに対して本種は、葉は著しく二形性、葉身はより細長く、羽片は 11 対に達し、幅はせいぜい 1.8 cm、葉裏は脈上、脈間共に多細胞毛が多い。分布域がかけはなれていることも考えあわせると、両者は別種として扱うのが妥当であろう。

ところで、本種と *D. polyrhizon* は、根茎が匍匐しないことで他のシケンダ類と異なっている。根茎が匍匐することは、従来シケンダ類の群の特徴の一つと考えられている (Ching, 1964; 大場, 1965)。しかし、前述したように、これら 2 種は根茎以外の点では他のシケンダ類とそれほど異ならない。一方、*Deparia* 属内でオオシケンダ節 sect. *Deparia* やミヤマシケンダ節 sect. *Lunathyrium* は斜上または直立した根茎を持つ種類を含んでいるが、本種や *D. polyrhizon* は前者からは中軸や羽軸の表面に屈曲した多細胞毛が多いこと、後者からは葉柄基部がくちばし状にならず aerophore を持たないことで異なっている。根茎が匍匐するか斜上または直立するかという形質は、ミヤマシケンダとキョタキシケンダのような例を見れば明らかなおり近縁種間でも変化し得るものであるから、これら 2 種はやはりシケンダ節 sect. *Athyriopsis* に属するものである。

本種の自生地は、常緑広葉樹におおわれた沢沿いの湿地である。最初の発見地である永久井野では一つの小さな谷にかなりの個体が群生していたが、残念ながらこの群落は伐採のため壊滅してしまった。しかし、近接するえびの市の狗留孫峠でも小株を 1 株得たから、注意してさがせば他にも自生地が見つかるものと思う。

***Deparia minamitanii* Serizawa, sp. nov.**

Filix terrestris. Rhizoma ascendens vel suberectum, cum reliquis stipitum 1.3-2.5 cm crassum. Frondes in quoque individuo 2-7, fasciculatae, dimorphae; frons vernalis sterilis, humilis, procumbens vel ascendens; frons aestivalis fertilis, elata, erecta. Stipes frondis fertilis 13-35 cm longus, basi non attenuatus et sine aerophoris, pilosus, subtus sparsim squamatus; squamis lanceolatis vel ovatis usque 5 mm longis, membranaceis, pallido-brunneis,

1) *Deparia polyrhizon* (Baker) Serizawa, comb. nov.—*Asplenium polyrhizon* Baker in Hook. et Baker, Syn. Fil. ed. 2, 490 (1874).—*Diplazium polyrhizon* Sledge, Bull. Brit. Mus. Nat. Hist. Bot. 2: 298 (1962).

I wish to express my sincere thanks to the Keeper of Botany of the British Museum (Natural History) who kindly sent me the specimens of this species on loan.

subdeciduis; stipes frondis sterilis 3.5–16 cm longus. Lamina frondis fertilis late lanceolata vel anguste ovata 20–35 cm longa 8–15 cm lata, sursum gradatim attenuata apice acuminata, bipinnatifida, herbacea, viridis vel flavo-viridis; rhachidi supra sulcata, pilos multicellulares usque 2.5 mm longos dense ferenti; pinnis 7–11-jugis a se 1.5–6 cm remotis, mediis patentibus sed infimis 1–2-jugis plus minusve reflexis, lanceolatis usque 8.5 cm longis 1.8 cm latis, apice acuminatis basi truncatis sessilibus vel brevissime petiolulatis, pinnatipartitis; segmentis 9–15-jugis, 3–5 mm latis, apice rotundatis vel subtruncatis margine crenatis vel subintegris subtus in venis intervenisque pilosis, venulis lateralibus simplicibus; lamina frondis sterilis anguste ovata vel elliptica 10–25 cm longa 6–12 cm lata. Sori elongati usque 3.5 mm longi, subcostales, indusiati; indusiis lunulatis sed in soris in basibus acroscopicis segmentorum saepe diplazioideis vel athyrioideis, margine erosis.

Hab. Kyushu. Pref. Miyazaki: Nagakuino, Kobayashi-shi, alt. ca. 450 m (T. Minamitani no. 14823, May 31, 1975); *ibid.* (T. Minamitani nos. 17152, 17154, Aug. 27, 1975); *ibid.* (S. Serizawa no. 25147, Aug. 10, 1976—holotype, fig. 1; nos. 25155, 25164); Kuruson-kyo, Ebino-shi, alt. ca. 500 m (S. Serizawa no. 25235, Aug. 11, 1976). All specimens are deposited in the Herbarium of Aichi Kyoiku University (AICH), and the isotype specimens are in BM, KYO and TI.

The present new species is similar to *Deparia polyrhizon* of Ceylon in its general habit, but differs from *D. polyrhizon* in conspicuously dimorphic and more hairy leaves, narrower laminae, and more numerous pinnae.

2. ヒメシケンダ (=ホソバシケンダ)

ヒメシケンダは、伊藤 (1938) により、屋久島産の標本に基づき、*Diplazium graminoides* の品種として記載された種類である。大場 (1965) は、*D. graminoides* (コシケンダ) をナチシケンダの変種にした際にヒメシケンダをその異名とし、ヒメシケンダにあたる屋久島小杉谷産の標本をコシケンダの代表例として図示した。しかし、芹沢 (1973) はコシケンダとヒメシケンダは別のものと判断し、前者はナチシケンダから区別できないと考えた。後者についてはその後再度屋久島に行き観察したが、その結果屋久島には稀にかなり標準的なホソバシケンダがあり、ヒメシケンダはそれに連続するものであることが判明した。したがって、ヒメシケンダはナチシケンダの変種ではなく、ホソバシケンダの異名となる。

Deparia conilii (Fr. et Sav.) M. Kato, Bot. Mag. Tokyo 90: 37 (1977).—*Asplenium conilii* Fr. et Sav. Enum. Pl. Jap. 2: 227 (1877).—*Diplazium*

grammitoides form. *yakusimense* H. Ito, Bot. Mag. Tokyo 52: 648 (1938).—*Athyrium conilii* form. *yakusimense* Tagawa, Col. Ill. Jap. Pterid. 181 (1959).—*Lunathyrium petersenii* var. *yakusimense* Serizawa, Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist. 5: 21 (1973).—*Lunathyrium petersenii* var. *grammitoides* H. Ohba, Sci. Rep. Yokosuka City Mus. 11: 55 (1965), p. p., quoad fig.

Distr. Japan (south to Isl. Yakushima) and Korea.

3. フモトシケンダ

ホソバシケンダによく似た種類であるが、葉柄がやや硬く、通常紫色を帯びること、葉身がやや幅広く、最下羽片は常に他の羽片より長いこと、葉に多細胞毛が多いこと、包膜は細く、鉤形のものが少なく、有毛であることなどの点で区別される。属名の変更に伴い、本種の学名も変更を要する。宮城県以南の本州、四国、九州に分布するが、産地は比較的まばらである。1973年以後に新しく検討したフモトシケンダの主要標本は、福島県猪苗代町上戸（芹沢26687）、群馬県妙義山（同26578）、東京都鷹巣山（同25382）、長野県軽井沢（同25918）、同下伊那天竜村（大塚孝一 s. n.）、愛知県鳳来寺山（芹沢28416）、大分県九重町田野（同25279）、宮崎県大崩山（同24355）、同えびの市吉牟田（同25226）、熊本県泉村（別府穰 s. n.）、鹿児島県開聞岳（日置正臣10981）、同屋久島宮の浦岳（芹沢21097）等である。これらの標本は、愛知教育大学生物学教室の標本室に保管されている。

Deparia pseudo-conilii (Serizawa) Serizawa, comb. nov.—*Lunathyrium pseudo-conilii* Serizawa, Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist. 5: 21 (1973).

Distr. Japan (Honshu, Shikoku and Kyushu).

var. ***subdeltoidofrons*** (Serizawa) Serizawa, comb. nov.—*Lunathyrium pseudo-conilii* var. *subdeltoidofrons* Serizawa, Sci. Rep. Takao Mus. Nat. Hist. 5: 22 (1973).

Distr. Japan (Central Honshu).

4. ムクゲシケンダ

ムクゲシケンダは独立種とする人もいるが、セイタカシケンダによく似た種類であり、時にそれとまぎらわしいこともあるから、その変種として扱うのが妥当であろう。

Deparia dimorphophylla (Koidz.) M. Kato, Bot. Mag. Tokyo 90: 37 (1977).
var. ***kiusiana*** (Koidz.) Serizawa, comb. nov.—*Diplazium kiusianum* Koidz. Acta Phytotax. Geobot. 1: 27 (1932).—*Athyrium kiusianum* Tagawa, Journ. Jap. Bot. 14: 105 (1938).—*Lunathyrium dimorphophyllum* var. *kiusianum* Kurata in Nameg. et Kurata, Enum. Jap. Pterid. 342 (1961).—*Deparia kiusiana* M. Kato, Bot. Mag. Tokyo 90: 37 (1977).

Distr. Japan (Honshu, Shikoku and Kyushu).

5. アソシケンダ

アソシケンダは、倉田 (1961) が述べているように、葉質が硬いこと、葉身中下部の羽片は基部がせばまること、胞子のう群が長く、つき方の少ない葉では羽軸の両側に各一列にならぶ傾向が強いことなどの特徴により、他のシケンダ類からはっきり区別される種類である。しかし、加藤 (1977) は本種について何もふれていない。九州中部の山地に分布し、1973年以後宮崎県日の影町 (南谷忠志17228) と熊本県五木村頭地 (芹沢25059) の標本も検討することができた。これらの標本は、愛知教育大学生物学教室の標本室に保管されている。

Deparia otomasui (Kurata) Serizawa, comb. nov.—*Lunathyrium otomasui* Kurata, Journ. Geobot. Kanazawa 9: 98 (1961).

Distr. Japan (Central Kyushu).

引用文献

Ching, R.C. (1964). Acta Phytotax. Sin. 9: 63-69. 伊藤 洋 (1938). 植物学雑誌 52: 648. 加藤雅啓 (1977). 植物学雑誌 90: 23-40. 倉田 悟 (1961). 北陸の植物 9: 95-100. 大場秀章 (1965). 横須賀市博物館研究報告 11: 48-55. 芹沢俊介 (1973). 東京都高尾自然科学博物館研究報告 5: 1-28.

Summary

The present paper deals with several Japanese species of *Deparia* sect. *Athyriopsis*. In the present paper, a new species (*D. minamitanii* Serizawa) was described, and five new combinations were proposed. *Diplazium grammoides* form. *yakusimense* was reduced to a synonym of *D. conilii*.

○チゴザサの花 (鈴木貞雄) Sadao SUZUKI: On the flower of *Pleioblastus Fortunei*

昨年12月にアルゼンチンのブエノスアイレスで栽培のササがはじめて花が咲いたとて、Elisa G. Nicora 氏から標本を送られ、同定を求められた。それは花をつけたチゴザサ *Pleioblastus Fortunei* (Van Houtte) Nakai で、日本では観賞用としてごく普通に栽培されているが、私は今まで花を見たことがなく、また開花の報告にも接したことがないので、きわめて珍らしく思った。

中井猛之進博士は本誌第9巻234ページ (1933) にチゴザサの和文の記載のなかで「未ダ花ヲ見ズ」と記されている。またアメリカの McClure 博士はその著書 “The Bamboos, a fresh perspective” (1966) の269ページにチゴザサの古名である *Arundinaria variegata* (Sieb.) Makino の記事のなかで、まだ花が咲いたという記録を見たことが